

**MEDICINE HOUSING UNIT**

Patent Number: JP10146377  
Publication date: 1998-06-02  
Inventor(s): HASEGAWA HARUO  
Applicant(s): MARUTO HASEGAWA KOSAKUSHO:KK  
Requested Patent: ☐ JP10146377  
Application Number: JP19960308145 19961119  
Priority Number(s):  
IPC Classification: A61J1/03; A61J1/14  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To easily and collectively house medicines by a quantity equivalent to one time, and carry them by forming notches in a plurality on a surface of a vessel, and constituting so that the medicines can be pushed and housed in a vessel main body by pressing its peripheral part.

**SOLUTION:** Notches 5 are formed in a plurality on a surface of a portable vessel 4 composed of a vessel main body 2 capable of housing medicines 1 and a cover body 3, and a pushing-in opening/closing part 7 capable of pushing and housing the medicines 1 in the vessel main body 2 by pressing this notch peripheral part to the vessel 4 inside, is arranged on a surface of the vessel 4. The cover body 3 is composed of an elastic body (for example, rubber and plastic), and is designed in a cap shape properly fitted to an opening part of the vessel main body 2 so as to easily separate from the vessel main body 2 by fingers. Therefore, the medicines 1 are pushed against a surface of the pushing-in opening/closing part 7 formed of the plural notches 5, and when this notch peripheral part 6 is pressed to the inside of the vessel 4 together with the medicines 1, a notch 5 part is opened, and the medicines 1 are pushed and housed in the vessel 4.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-146377

(43)公開日 平成10年(1998)6月2日

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>

A 6 1 J 1/03  
1/14

識別記号

F I

A 6 1 J 1/00

3 7 0 A

3 9 0 S

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平8-308145

(22)出願日 平成8年(1996)11月19日

(71)出願人 000137546

株式会社マルト長谷川工作所  
新潟県三条市土場16番1号

(72)発明者 長谷川 晴生

新潟県三条市土場16番1号 株式会社マル  
ト長谷川工作所内

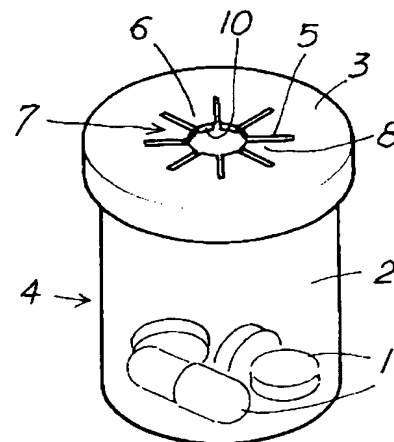
(74)代理人 弁理士 吉井 昭榮 (外2名)

(54)【発明の名称】 薬剤収納器

(57)【要約】

【課題】 家庭などにおいても容易に薬を1回分の分量にまとめて収納できる、携帯用の薬剤収納器を提供すること。

【解決手段】 薬剤を収納し得る容器本体と蓋体とから成る携帯可能な容器の表面に切り込みを複数形成し、この切り込み周辺部を容器内側へ押圧することにより薬剤を容器本体内に押込収納し得る押し込み開閉部を容器表面に設けたことを特徴とする薬剤収納器。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 薬剤を収納し得る容器本体と蓋体とから成る携帯可能な容器の表面に切り込みを複数形成し、この切り込み周辺部を容器内側へ押圧することにより薬剤を容器本体内に押込収納し得る押し込み開閉部を容器表面に設けたことを特徴とする薬剤収納器。

【請求項2】 前記容器を立設保持可能で片手で把持可能な携帯性を有する形状に構成し、前記押し込み開閉部を前記容器の蓋体上面に設けたことを特徴とする請求項1記載の薬剤収納器。

【請求項3】 前記切り込みにより前記切り込み周辺部に切り込み舌片部が形成され、この切り込み舌片部が撓み弾性を有するように構成し、この切り込み舌片部を容器内側へこの撓み弾性に抗して押圧することにより薬剤を容器本体内に押し込み収納する開口間隙が形成され、且つこの押圧を解除すると少なくとも容器内の薬剤が外方へ出ない程度にこの開口間隙が閉口するように前記押し込み開閉部を構成したことを特徴とする請求項1、2のいずれか1項に記載の薬剤収納器。

【請求項4】 前記切り込みを放射状に複数形成して前記押し込み開閉部を形成したことを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の薬剤収納器。

【請求項5】 前記切り込みを放射状に複数形成し、この切り込みの放射中心位置に錠剤状の薬剤に係止する係止凹部を設けて前記押し込み開閉部を形成し、この係止凹部に錠剤状の薬剤を指で当てがって容器内へ押圧することによりこの錠剤状の薬剤を容器内に押し込み収納し得るように構成したことを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の薬剤収納器。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯用の薬剤収納器に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】病院で薬をもらうと、非常に多くの種類の薬を出されることがある。そして、例えば職場や学校などで昼に飲む薬を一回分持っていこうとすると、台紙などに入れられた各種の薬を、夫々1回分分離してバラバラの状態を持っていかねばならず、しかも、薬を飲むときに、夫々の薬を台紙を剥がすなどしながら一々取り出して飲まなければならなかった。

【0003】そして、このような現状では、特に子供やお年寄りなどでは、薬の分量を間違えたり、幾つかの薬を飲み忘れたり、台紙から薬を取り出すときに薬が落下してしまうことがあるなどの問題点が生じていた。

【0004】また、家庭用の常備薬にもビンに入れられた錠剤タイプのものであるが、この錠剤も職場や学校などで昼に飲む薬を一回分持っていこうとすると、ティッシュペーパーなどにくるんで持ち運ぶなどの不適宜な収

納、持ち運び方法しかないという問題点がある。

【0005】本発明は、上記問題点を解決するもので、家庭などにおいても容易に薬を1回分の分量にまとめて収納できる、携帯用の薬剤収納器を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0007】薬剤1を収納し得る容器本体2と蓋体3とから成る携帯可能な容器4の表面に切り込み5を複数形成し、この切り込み周辺部6を容器4内側へ押圧することにより薬剤1を容器本体2内に押込収納し得る押し込み開閉部7を容器4表面に設けたことを特徴とする薬剤収納器に係るものである。

【0008】また、前記容器4を立設保持可能で片手で把持可能な携帯性を有する形状に構成し、前記押し込み開閉部7を前記容器4の蓋体2上面に設けたことを特徴とする請求項1記載の薬剤収納器に係るものである。

【0009】また、前記切り込み5により前記切り込み周辺部6に切り込み舌片部8が形成され、この切り込み舌片部8が撓み弾性を有するように構成し、この切り込み舌片部8を容器4内側へこの撓み弾性に抗して押圧することにより薬剤1を容器本体2内に押し込み収納する開口間隙9が形成され、且つこの押圧を解除すると少なくとも容器4内の薬剤1が外方へ出ない程度にこの開口間隙9が閉口するように前記押し込み開閉部7を構成したことを特徴とする請求項1、2のいずれか1項に記載の薬剤収納器に係るものである。

【0010】また、前記切り込み5を放射状に複数形成して前記押し込み開閉部7を形成したことを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の薬剤収納器に係るものである。

【0011】また、前記切り込み5を放射状に複数形成し、この切り込み5の放射中心位置に錠剤状の薬剤1に係止する係止凹部10を設けて前記押し込み開閉部7を形成し、この係止凹部10に錠剤状の薬剤1を指で当てがって容器内へ押圧することによりこの錠剤状の薬剤1を容器内に押し込み収納し得るように構成したことを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の薬剤収納器に係るものである。

【0012】

【発明の実施の形態】好適と考える本発明の実施の形態（発明をどのように実施するか）を、図面に基づいてその作用効果を示して簡単に説明する。

【0013】請求項1記載の発明においては、複数の切り込み5により形成された押し込み開閉部7上に薬剤1を押し当て、この切り込み周辺部6を薬剤1と一緒に容器4内側へ押圧することにより、切り込み5部分が開口して容器4内に薬剤1が押込収納されることとなる。

【0014】また、押し込み開閉部7は押圧しないと開

口しないから、収納された薬剤1が容器4外方に出たりしない。

【0015】また、容器4から蓋体3を取り外すことにより、薬剤1を容器4から取り出し可能となり、容器本体2内の薬剤1を一気に口内に入れることも可能となる。

【0016】また、容器4内に薬剤1を収納するときには、切り込み5部分を押圧開口することにより薬剤1を容器4内に入れるから、薬剤1の収納数（即ち、押圧回数）をカウントしながら収納することにより薬剤1の分量を間違えないこととなる。請求項2記載の発明においては、容器4を立設保持可能に構成したから、容器4内に薬剤1を押込収納するとき容器4を立設保持させることにより、薬剤1を容器4内に押込収納し易いこととなる。

【0017】また、容器4を片手で把持可能な携帯性を有する形状に構成したから、容器本体2から蓋体3を取り外した後、容器本体2を片手で把持して口まで持っていく、そのまま口を開けて容器本体2を傾けることにより、容器本体2内の薬剤1を一気に口内に入れることができる。

【0018】また、前記押し込み開閉部7を前記容器4の蓋体2上面に設けたから、薬剤1を飲むときに容器4から蓋体3を取り外して容器本体2を片手で把持したときに、誤って押し込み開閉部7を押圧したりすることがなく、薬剤1を飲むときに容器本体2内の薬剤1が不意に容器本体2外方に出たりしないこととなる。

【0019】請求項3記載の発明においては、前記切り込み5により前記切り込み周辺部6に形成された切り込み舌片部8が撓み弾性を有するように構成しているから、この切り込み舌片部8を容器4内側へこの撓み弾性に抗して押圧することにより開口間隙9が形成され、この開口間隙9より薬剤1を容器本体2内に押し込み収納することができる。

【0020】また、押し込み開閉部7の押圧を解除すると少なくとも容器4内の薬剤1が外方へ出ない程度に開口間隙9が閉口するから、容器4内に収納された薬剤1は蓋体3が取り外されない限り容器の外方へ出ないこととなる。

【0021】請求項4記載の発明においては、前記切り込み5を放射状に複数形成して前記押し込み開閉部7を形成したから、切り込み5の放射中心位置が押し込み開閉部7を押圧することにより開口し易いこととなる。

【0022】請求項5記載の発明においては、前記切り込み5を放射状に複数形成し、この切り込み5の放射中心位置に錠剤状の薬剤1が係止する係止凹部10を設けて前記押し込み開閉部7を形成したから、押し込み開閉部7を薬剤1と一緒に押圧開口するときに、錠剤状の薬剤1でもこの薬剤1がずり動いたりして押し込み開閉部7以外の部分に不意に位置ずれたりしないこととなる。

【0023】

【実施例】本発明の具体的な実施例について図面に基づいて説明する。

【0024】本実施例は、薬剤1を収納し得る容器本体2と蓋体3とから成る携帯可能な容器4の表面に切り込み5を複数形成し、この切り込み周辺部6を容器4内側へ押圧することにより薬剤1を容器本体2内に押込収納し得る押し込み開閉部7を容器4表面に設けた薬剤収納器に係るものである。

【0025】容器本体2は上部が開いた筒体形状に構成され、容器本体2の内部が可視できるように透明に設計されている。また、容器本体2の底部は水平面に設けられ、立設保持可能となっている。

【0026】蓋体3は弾性体（例えばゴムやプラスチック。）により構成され、指で簡単に容器本体2と分離できるように容器本体2の開口部に適宜被嵌合するキャップ形状に設計されている。

【0027】この容器本体2と蓋体3とから成る容器4は、片手で把持可能な携帯性を有する大きさに構成されている。

【0028】蓋体3の上部には、切り込み5が放射状に複数形成されている。そして、この切り込み5により切り込み周辺部6に切り込み舌片部8が形成されている。

【0029】また、切り込み5の放射中心位置に係止凹部10が設けられている。この係止凹部10は、容器本体2内に連通する孔10に設けられており、その孔径は容器4内に収納しようとする薬剤1より小さく形成されている。

【0030】以下に、本実施例の作用効果について、容器4内に薬剤1を収納、取り出しする場面に基づいて詳述する。

【0031】予め、蓋体3を容器本体2に嵌着し、容器4を立設しておく。

【0032】先ず、容器4内に収納しようとする錠剤状の薬剤1に係止凹部10上に乗せる。次に、薬剤1を上方より指で押圧する。

【0033】このとき、蓋体3が弾性体により構成されているから、薬剤1の押圧に伴って切り込み舌片部8及び切り込み周辺部6（即ち、前記押し込み開閉部7。）が下方に撓む。

【0034】従って、切り込み舌片部8同志の間隔が広げられ、必然的に係止凹部10として設けられた前記孔10も広げられ、この孔10の孔径が薬剤1より大きくなり、この孔10と切り込み舌片部8同志の間隔とが開口間隙9となり、薬剤1が押し込み収納されることとなる。

【0035】従って、薬剤1は開口間隙9より容器本体2内に自然落下していき、容器4内に収納されることとなる。同時に、下方に撓んでいた切り込み舌片部8が、指による押圧位置にまで戻る。

【0036】次に、指による切り込み舌片部8の押圧を

解除すると、下方に撓んでいた切り込み舌片部8は元通りの位置にまで戻る。そして、必然的に孔10の孔径も元通り薬剤1より小さくなる。

【0037】従って、上記作業を繰り返して、必要種類、個数の薬剤1を順次容器4内に収納することにより、1回に飲む分量の薬剤1をひとまとめにして収納、携帯移動できることとなる。

【0038】また、容器4内に収納された薬剤1は、薬剤1自体が非常に軽量であるため、容器4を逆さまにしても薬剤1は切り込み舌片部8を撓ませることができず、収納された薬剤1は容器4の外方に出ないこととなる。

【0039】また、収納された薬剤1を飲むときは、蓋体3を容器4から取り外し、容器本体2を片手で把持して口まで持っていき、そのまま口を開けて容器本体2を傾けることにより、容器本体2内の薬剤1を口内に入れる。

【0040】本実施例は上述のように構成したから、複数の切り込み5により形成された押し込み開閉部7上に薬剤1を押し当て、この切り込み周辺部6を薬剤1と一緒に容器4内側へ押圧することにより、切り込み5部分が開口して容器4内に薬剤1が押込収納されることとなる。

【0041】また、前記切り込み5を放射状に複数形成し、この切り込み5の放射中心位置に錠剤状の薬剤1に係止する係止凹部10を設けて前記押し込み開閉部7を形成したから、押し込み開閉部7を薬剤1と一緒に押圧開口するときに、錠剤状の薬剤1でもこの薬剤1がずり動いたりして押し込み開閉部7以外の部分に不意に位置ずれしたりしないこととなる。

【0042】また、押し込み開閉部7は押圧しないと開口しないから、収納された薬剤1が容器4外方に出たりしない。

【0043】また、容器4内に薬剤1を収納するときには、切り込み5部分を押圧開口することにより薬剤1を容器4内に入れるから、薬剤1の収納数（即ち、押圧回数）をカウントしながら収納することにより薬剤1の分量を間違えないこととなる。また、容器4内に薬剤1を収納するときには、切り込み5部分を押圧開口することにより薬剤1を容器4内に入れ、容器4から薬剤1を取り出すときには、蓋体3を取り外して容器4から薬剤1を取り出すから、薬剤1を収納するときに薬剤1の収納数（即ち、押圧回数）をカウントしながら収納することにより薬剤1の分量を間違えないこととなり、また、蓋体3を取り外して薬剤1を収納、取り出しを行うタイプの容器と比較して容器本体2と蓋体3との着脱回数を2分の1にすることができる。

【0044】また、容器4を立設保持可能に構成したから、容器4内に薬剤1を押込収納するときに容器4を立設保持させることにより、薬剤1を容器4内に押込収納

し易いこととなる。

【0045】また、容器4を片手で把持可能な携帯性を有する形状に構成したから、容器本体2から蓋体3を取り外した後、容器本体2を片手で把持して口まで持っていき、そのまま口を開けて容器本体2を傾けることにより、容器本体2内の薬剤1を一気に口内に入れることができる。

【0046】また、前記押し込み開閉部7を前記容器4の蓋体2上面に設けたから、薬剤1を飲むため容器4から蓋体3を取り外して容器本体2を片手で把持したときに、誤って押し込み開閉部7を押圧したりすることがなく、薬剤1を飲むときに容器本体2内の薬剤1が不意に容器本体2外方に出たりしないこととなる。

【0047】また、前記切り込み5により前記切り込み周辺部6に形成された切り込み舌片部8が撓み弾性を有するように構成しているから、この切り込み舌片部8を容器4内側へこの撓み弾性に抗して押圧することにより開口間隙9が形成され、この開口間隙9より薬剤1を容器本体2内に押し込み収納することができる。

【0048】また、押し込み開閉部7の押圧を解除すると少なくとも容器4内の薬剤1が外方へ出ない程度に開口間隙9が閉口するから、容器4内に収納された薬剤1は蓋体3が取り外されない限り容器の外方へ出ないこととなる。

【0049】尚、例えば、昼飲む薬剤1であれば、図4に図示したような昼を表すマーク11が設けられたシール体12を容器4に貼着し、朝飲む薬剤1であれば、朝を表すマークが設けられたシール体を容器4に貼着するなどにより、朝、昼、晩などで飲む種類が異なる場合でも、医者から指示された薬剤1の分量を間違えないようにすると良い。尚、マーク11は、薬剤1を飲む時間を間違えず、且つ薬剤1を飲むことが面倒に感じられないようなデザイン形状に工夫すると良い。

【0050】尚、切り込み5が一本設けられているだけの押し込み開閉部7でも、押圧により開口間隙9を形成することができ、薬剤1の押し込み収納が可能である。

【0051】尚、容器本体2として、上下が開口し内部が隔壁により上下に分割された筒体を使用し、この筒体の上下に蓋体3、押し込み開閉部7を設けた容器4を使用すれば、容器4内に2回分の薬剤1を収納することも可能となる。

【0052】

【発明の効果】本発明は上述のように構成したから、容器の表面に切り込みを形成するだけで薬剤を容器内に押し込み収納し得る押し込み開閉部を設けることができ、この押し込み開閉部より容器内に収納された薬剤は蓋体を取り外さないと外方に出すことができず薬剤を容器内に確実に収納することができ、しかも薬剤を収納するときは押し込み開閉部から収納し、薬剤を取り出すときには蓋体を取り外すことがないから、蓋体を取り外して

薬剤を出し入れするタイプの収納器と比較して繰り返し使用しても蓋体の取り外し部分が壊れにくいなどの実用性、耐久性に秀れた薬剤収納器となる。

【0053】請求項2記載の発明においては、容器を立設保持可能に構成したから、容器内に薬剤を押し込め収納するときに容器を立設保持させることにより、薬剤を容器内に押し込め収納し易く、また、容器を片手で把持可能な携帯性を有する形状に構成したから、容器本体から蓋体を取り外した後、容器本体を片手で把持して口まで持っていく、そのまま口を開けて容器本体を傾けることにより、容器本体内の薬剤を一気に口内に入れることができ、また、前記押し込み開閉部を前記容器の蓋体上面に設けたから、薬剤を飲むときに容器から蓋体を取り外して容器本体を片手で把持したときに、誤って押し込み開閉部を押圧したりすることがなく、薬剤を飲むときに容器本体内の薬剤が不意に容器本体外方に出たりしないなどのより一層実用性に秀れた薬剤収納器となる。

【0054】請求項3記載の発明においては、前記切り込みにより前記切り込み周辺部に形成された切り込み舌片部が撓み弾性を有するように構成しているから、この切り込み舌片部を容器内側へこの撓み弾性に抗して押圧することにより開口間隙が形成され、この開口間隙より薬剤を容器本体内に押し込み収納することができ、また、押し込み開閉部の押圧を解除すると少なくとも容器内の薬剤が外方へ出ない程度に開口間隙が閉口するから、容器内に収納された薬剤は蓋体を取り外されない限り容器の外方へ出ないなどの極めて実用性に秀れた薬剤収納器となる。

【0055】請求項4記載の発明においては、前記切り

込みを放射状に複数形成して前記押し込み開閉部を形成したから、切り込みの放射中心位置が押し込み開閉部を押圧することにより開口し易いこととなる。

【0056】請求項5記載の発明においては、前記切り込みを放射状に複数形成し、この切り込みの放射中心位置に錠剤状の薬剤に係止する係止凹部を設けて前記押し込み開閉部を形成したから、押し込み開閉部を薬剤と一緒に押圧開口するときに、錠剤状の薬剤でもこの薬剤がずり動いたりして押し込み開閉部以外の部分に不意に位置ずれしたりしないより一層実用性に秀れた薬剤収納器となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例の説明斜視図である。

【図2】本実施例の容器本体2と蓋体3とを分離した状態を示す説明斜視図である。

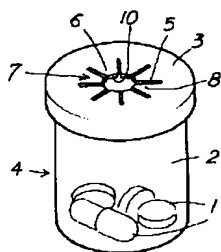
【図3】本実施例の説明上面図である。

【図4】本実施例の容器本体2に貼着するシール体12の説明正面図である。

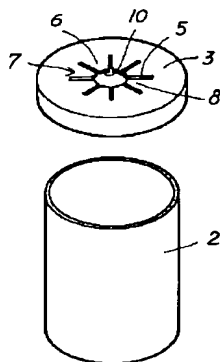
【符号の説明】

- 1 薬剤
- 2 容器本体
- 3 蓋体
- 4 容器
- 5 切り込み
- 6 切り込み周辺部
- 7 押し込み開閉部
- 8 切り込み舌片部
- 9 開口間隙
- 10 係止凹部

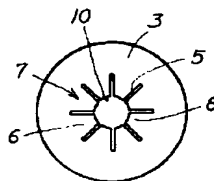
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

